

## 助産所で、コミュニティで、母と子の命を守る活動が続けられています

### PIHS 助産所現況報告 (2018年8月—2019年3月)



2018年8月保健省認可、10月保険公社認可を受けたことにより、保険加入者の出産については、保険公社から支払いを受けるようになりました。



この10月以降の出産件数は38件で内訳は以下の通りです。

保険加入者	9
出産直前保険加入者	18
保険未加入者	11

PIHS 助産所提供  
「赤ちゃんアルバム」  
より

### PIHS 代表ナプサさんも「プロバイダー」目指します

保険適用助産所で出産介助ができるのは、保健省と保険公社、両政府機関認証の助産師（プロバイダー）のみで、国家試験合格の看護師や助産師というだけでは十分ではありません。

設備面の基準を満たして保険適用となった昨年10月、外部からプロバイダー2名を雇用しました。しかし、先住民族の妊産婦への理解不足や、高額な基本給に加えてしっかり時間外手当を請求する等、保険診療収入に限られている中、対策が急がれました。

浮上したのがPIHSの医療スタッフのプロバイダー資格取得案です。まずは代表のナプサさん(看護師)が、この7月からの病院研修に参加することになり、その経費約5万円を支援しました。来年3月に助産師コースを終了するモナリサもプロバイダー候補です。

助産所本来の目的達成のための歩みを、私たちもいましばらく支えたいと思います。

### 妊産婦対象の医療保険加入推進プロジェクト

左欄で「出産直前保険加入者」とあるのは、出産を控えた妊婦のうち、PIHS 助産所での出産を予約した場合に、PIHS が3か月分の保険料600ペソを肩代わりして保険加入させたケースです。赤ちゃん誕生後、保険公社に各種手続きをすることで、助産所は出産介助料を受け取れます。

これまでも繰り返しお伝えのように、助産所の持続可能な運営には、妊産婦の保険加入者増が必須です。幸いこのニーズに対しては、これまでも多大なご協力をいただいたNPO法人「WE21ジャパンみどり」のご理解をいただき、「医療保険加入推進等、母子の健康推進プロジェクト」の実施が決まりました。計画出産指導、血圧や貧血検査、栄養指導、給食支援も含む本事業はフィリピンの「栄養キャンペーン月間」の今月7月から本格始動しました。

### ヤギと水道プロジェクト地区ムジャ近況報告

生まれた子ヤギ5匹のうち、4匹が順調に育っているムジャ地区では、この6月に幼児と母親のコミュニティスクールが開設され、7月には給食と栄養指導研修が行われました。ヤギプロジェクトの収入は、このムジャ地区を含むコミュニティ活動に充当される予定です。



晴れた日は木陰で、雨の日はヤギ小屋にシートを敷いて給食タイムを楽しむ園児たち

## 土壌流出を防止し、収入向上を図る傾斜地農法によるアグロフォレストリー事業

PFPPに依頼した事業評価活動、農業専門家ニックさんからは現況報告が届いていません。事業の多くを担当したロニーさんやサムソンさんが退職したことや、地元のリーダー等も交代していて、元受益者との接触や、苗木を植えた山腹斜面の確認に手間取っているのかもしれない。ここではニックさん他各事業地域担当者の短信をお届けします。



先住民族学校  
ILS  
アニータ先生

### カラバオ役立っています

2016年から3年間、レイクセブ町西南部ティヌオス等に植えた各種果樹苗やナブルなどの在来種苗木は、ILS教師の指導、監督のもと、順調に育っている。HANDS会員から寄贈のカラバオも、父母や住民に貸し出されて、果樹苗の間作コーンの栽培に役立っている。



ナバルタビ  
保存組織  
ジャオさん

### アバカ栽培追加支援に感謝

昨年のアバカは順調に育っている。今年も200本分の支援をいただき、緩傾斜地の整地を済ませた。来年はナバルタビ織の黒色の染料、キナルムの苗木を育てて、伝統織の材料を全て地元で調達できるようにしたい。



PFPP  
ニックさん

### NPAの支配下にあるブハガン

2006年緑の募金で実施したブハガン村を訪ねた。共産ゲリラ・新人民軍(NPA)の支配下にあり、NGOであるPFPPが入るのは難しそう。NPAと政府軍との交戦の危険もあり、ここは後回しにしたい。



農業指導者  
ボニファシオ

### ボール村モデル農場

研修の食費予算の一部で釘を購入、廃材と竹で住民組織TBAの集会所を建てた。傾斜地農法基礎技術である等高線上に苗の位置を決める研修が終わった。事業の会計は元奨学生ヨナロセに依頼した。